

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

伊那市教育委員会

1 調査の目的（文部科学省）

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 令和3年度調査実施日 令和3年5月27日（木）

3 調査対象 小学校第6学年 中学校第3学年

4 調査内容

(1) 教科に関する調査

・小学校調査：国語 算数 ・中学校調査：国語 数学

(2) 質問紙調査

・児童生徒に対する質問紙調査 ・学校に対する質問紙調査

5 結果の概要と改善のポイント

(1) 小学校国語

文章中の主語・述語の関係、および助詞等の語句の使い方等、基礎的な文法の理解はおおむね定着している。

しかし、「書くこと」の領域において、伝えたいことが明確に伝わるよう文章全体の構成や展開を考えたり、目的を意識して中心となる語や文を見つけて文章を要約したりすることなどに課題がある。漢字の定着や活用も十分ではない。

目的をもって文章を書く指導を積み重ねるとともに、すべての教育活動の中で「書く活動」を大切にしたい。「読むこと」の単元においても、事柄の順序や文と文との続き方等、書き表し方の工夫について丁寧に扱い、相手意識や目的意識を持って文章で表現する経験の積み重ねを大切にしたい。また、児童相互の意見交換を重視し、日常的に行っていききたい。

日常生活の中では、読書活動の充実をめざし、豊かな表現等に触れる機会を多くとっていききたい。

(2) 小学校算数

算数の基礎的な学力はおおむね定着している。条件に合う時刻を求めたり、棒グラフから項目間の関係を読み取ったりすることができる児童が多い。また、示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断できる児童も多い。

しかし、例題の解法を別の問題に活用させるとき、小数倍の関係が成立する理由を基準量や比較量を用いて記述することに課題がみられる。具体物を用いたり ICT を活用したりしながら、小数でも倍の意味を理解できるようにしていくことが大切である。また、答えを求めるだけでなく自分の考えを記述できるようにしていく指導も引き続き行っていききたい。

(3) 中学校国語

話合いの話題や方向を捉えたり質問の意図を捉えたりする力や、文脈に即して漢字を正しく読む力が定着してきている。

しかし、文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えを持つことや書いた文章を読み返して語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことに課題がみられる。

授業では、自分が書いた文章を具体例や描写などに着目して見直し、これらの表現が自分の

考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるか自ら見返す力をつけていきたい。また、文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりする場面を設定したい。その上で、改めて自分が文章をどのように捉えて解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにした。

(4) 中学校数学

中学校数学の基礎的な学力はおおむね定着している。全国平均と比較すると、「数と式」領域はほぼ平均、「図形」と「関数」領域がやや下回り「資料の活用」領域がやや上回っている。

全国的な傾向でもあるが、選択式と短答式は正解率が高い。記述式の解答が求められる問題の正解率が全国平均と比べてやや低く、無答率がやや高い傾向にある。

授業において、自分の思考過程を記述し、ICT機器を活用して前提や結論を整理してどう考えたかを説明する学習を大切に探求的な学習を推し進めたい。計算力を基盤としつつも、生徒相互で考え合う活動や事象を説明し合う活動を重視したい。新しい学習指導要領や全国学力・学習状況調査で示されている数学科で求められている学力を整理することも重要である。

6 児童・生徒質問紙調査から

伊那市の小中学生は、毎日決まった時間に寝起きしたり、朝食を毎日食べたりという、基本的な生活習慣が身についている。

小学生は、自分にはよいところがあると思っていたり、将来の夢や目標を持っていたりする児童が多いが、中学生は、その割合がやや低下している点は課題としてとらえたい。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと感じ、人の役に立つ人間になりたいと思っている小中学生が大多数を占めている点を大切に、道徳性や人権意識を高める学習のさらなる充実を図っていきたい。

7 今後の取組

各校においては、調査結果の分析を行い、授業改善の方向を具体化するとともに、個票を基に定着に課題のある内容について個別指導等の取組を進めたい。

ICT機器の活用について研究を進め、ICTの活用を工夫して子ども中心の学び、子どもと共に創る授業となるよう改善を具体的に進めていきたい。

昨年度、「授業改善リーフレット」が学力向上検討委員会より発信された。それをもとに学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、全小中学校で取り組んでいきたい。